

上手に栽培するポイント

- 生育適温は25～30℃で、10℃以下の低温では生育が停滞します。品種の特徴にあった、適正な播種時期を遵守しましょう。
- 耕うんうね立て同時は種では、土塊が粗いと発芽が安定しません。また、は種以降の土壌処理除草剤の効果安定、土寄せの精度などにも影響しますので、適正な土壌水分の時に作業し、丁寧に耕うんし、土を細かくします。
- 根張りの促進と倒伏防止、雑草対策として中耕・培土を行います。
- 開花～さや肥大期に、乾燥が続く場合は、うね間かん水を行い、結実率を高め、さやを肥大を促進させます。
- 収量と食味・外観品質を向上させるため、開花期と収穫14日前頃に追肥します。
- また同時期、JA えだまめ防除暦などを参考に、病害虫防除をしっかりと行います。
- 収穫は気温の低い早朝に行い、収穫後は速やかに選果場へ持ち込み品質の低下を防ぎましょう。

導入上の留意点

- 水田転換畑では、周田明きょや弾丸暗きょの施工、耕盤破碎（サブソイラ、プラソイラの使用）により排水性・透水性の改善を行きましょう。
- 収穫（および出荷調製）に労働力が集中します。えだまめは収穫適期が3日程度と短いため、収穫遅れとならないように、他の作物との競合や労力を考慮して作付け計画を立てましょう。
（10aの収穫目安 ハーベスタ収穫：3人×4時間×1.5日（18時間））
- 収穫は、JAでハーベスタ（収穫機）、引抜機、脱莢機等の貸し出しを行っています。また、大型機械所有者への作業委託も可能です。さらに収穫後の調製選別作業はJAに委託することができますので、新たな機械投資は少なくすみ